

岡山県金光町生まれ。東京での女性誌の編集を経て、1988年輪島に移住、翌年輪島塗の下地職人に弟子入りして伝統的な技術を修得する。1994年独立して市内三井町に漆工房をかまえ、以降東京や名古屋、岡山、高知、福岡など各所で個展を展開している。1997年ドイツ各所の美術館で開催された日本の現代塗物十二人展に参加、2000年輪島市内に漆職人9人でギャラリーわいちを開設するなど、新世代の作家として積極的な活動を示している。

椀や皿、盆、箱物、膳や椅子など、中世の漆器といった古くからの器物や韓国・李朝の雑器などからその合理性と美質を見出し、独自の創意を込めて普段使いとしての生活雑器を主に手がけている。いずれも和紙を漆で張り込む独自の手法を用い、厚手の素地に柔らかいテクスチャーとマチエールをだしながら丈夫さと使い勝手の心地良さ、清々しい美しさを求めている。近年、中国・宋の白磁に創意を得たという、繊細な軽快さと緩やかな広がりをもった薄手の天廣鉢(鉢)のような、新案をもってその作域を広げつつある。

(M.M.)



2 | 三つ椀 赤・黒 2000
A set of three bowls, red and black



1 | 天廣鉢 赤・黒 1999
Tenko bowls, red and black



4 | 大盆 日の丸 2000
Large tray: Hinomaru (sun disk)



3 | 藥箱 2000
| Medicine box



5 | 茶入 2000
| Tea caddies